

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	登別市アイヌ政策推進事業
2 事業の種類	(文化振興事業) (地域・産業振興事業) (コミュニティ活動支援事業) の別
3 事業の目的	アイヌ文化等の次世代への承継を確実なものとするとともに、地域に存するアイヌ文化等を発信し、内外におけるアイヌ関連の交流活動を活発化させ、魅力ある地域社会の形成を目的とする。
4 事業の概要	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>① アイヌ伝統等普及啓発事業</p> <p>○事業実施主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登別市 <p>○事業の実施場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登別市等 <p>○事業の実施期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交付決定日～令和5年3月 <p>○事業の内容と考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市の公式WEBサイトにアイヌ文化等を紹介するための特設ページを設置し、広くアイヌ文化の認知度向上に努めるとともに、観光資源としてのアイヌ文化を紹介する。 ・ 登別アイヌ協会に委託し、アイヌ文様タペストリーを作成し、公共施設20箇所に掲出する。同時にアイヌ高齢者の生活支援とアイヌ文化の伝承に努める。 <p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>① アイヌ文化関連の観光プロモーション事業</p> <p>○事業実施主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登別市、登別国際観光コンベンション協会 <p>○事業の実施場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登別市・白老町・千歳市・札幌市 <p>○事業の実施期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交付決定日～令和5年3月 <p>○事業の内容と考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登別温泉～ウポポイ～新千歳空港を結ぶ都市間高速バス路線の運行を支援する。運行本数は3往復/日。 ・ 車両は本市がリースし、道南バス(株)に貸与する。運行は道南バス(株)が担う。 ・ バス運行に併せ、起終点となる登別温泉地区のバス停留所にハイブリットルーフ等を設置し、利便性の向上を図る。 ・ 登別温泉～ウポポイ間で走行するバスにアイヌ文化に関連した新たなデザインに更新する。 ・ ウポポイと本市の観光資源をツールに道内外の教育旅行の誘致を図る <p>② 登別市情報発信拠点施設整備事業</p> <p>○事業実施主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登別市 <p>○事業の実施場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登別市 <p>○事業の実施期間</p>

- ・ 交付決定日～令和5年3月
- 事業の内容と考え方
 - ・ 市が建設を計画しているJR登別駅前のコミュニティ施設に、アイヌ文化の情報発信機能を付与し、北海道全体のアイヌ文化の発信拠点とするとともに、ウポポイへの送客拠点の役割を担う。
 - ・ 2019年基本設計（建物・展示）、2020年実施設計、2021年と2022年の2カ年に建築工事を行い、2022年秋頃の供用開始予定。
 - ・ 建物は2階建てを想定。1Fにアイヌ文化情報発信拠点、アイヌ文化関連展示、ミニシアターなどを整備する。2Fにはアイヌ料理体験などができる調理室などを完備する。また2Fのコミュニティスペースにおいても、アイヌ文化普及や継承のための講座を開催する。
- ※ 事業において施設整備等を含む場合
- 施設整備の場所及び用地の概要：
 - ・ 登別市情報発信拠点施設の整備予定地は、JR登別駅前広場に隣接する登別市登別港町1丁目4番9
- 規模及び構造（図面添付）：非木造2階建て 延べ床面積 1,440㎡
- 施設内容（別表2による）：
 - ・ アイヌ文化紹介展示スペース
 - ・ 観光案内所
 - ・ アイヌ工芸品等販売スペース
 - ・ 調理室
 - ・ 多目的ホール
 - ・ 会議室
 - ・ トイレ／授乳室
- 利用計画（別表3による）：
 - ・ アイヌ文化展示スペース（常設）
 - ・ 北海道内アイヌ文化、史跡紹介スペース（常設）
 - ・ アイヌ文化講座の開催（調理体験含む）
- 維持管理費の収支計画（別表4による）
- 施設の整備完了予想図：別紙のとおり
- 附近見取図：別紙のとおり
- 配置図：別紙のとおり
- 同種又は類似の施設の数及び利用状況：
 - ・ 市内の同種又は類似の施設なし。
- 機材導入の必要性／機材の種類：
 - ・ アイヌ文化展示用機材一式
 - ・ プロジェクター、スクリーン
 - ・ デジタルサイネージ 等

<p>5 アイヌ施策推進地域計画における記載</p>	<p>4-2 アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アイヌ伝統等普及啓発事業 ・ 貴重なアイヌ文化に関する絶版図書等を購入・保管することで、市民や研究者等にとって魅力ある環境の整備 ・ アイヌ文様タペストリー製作を通じた普及、伝承。 ・ 市の公式WEBサイトにアイヌ文化等を紹介する特設ページを増設し、普及啓発 ・ アイヌ文化や人物に関する視聴覚教材を作成し、拠点施設や学校等で放映し、普及啓発 ・ 個人や団体が所有するアイヌ文化に関する資料等について適切に管理保存し、普及啓発 <p>4-3 観光の振興その他の産業の振興に資する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ■ アイヌ文化関連の観光プロモーション事業 ・ ウポポイ経由の都市間バスの運行による観光プロモーション ・ アイヌ文化に関する展示環境の整備による普及啓発 ・ 市内のアイヌ地名に関する研究や、それらを活用した観光ルートづくり ・ アイヌ文化を伝える貴重な文化遺産の修繕、展示による普及啓発 ・ アイヌ関連施設等への案内看板設置 ・ 登別市と白老町の行政界に点在するアイヌゆかりの地や生活館を巡る、観光振興やコミュニティ活動支援に資する交通手段についての検討、実証運行を行う。 ・ JR登別駅を利用する観光客をウポポイへ誘導するため、多言語での案内機能の強化やパンフレットの作成を行う。 ・ ウポポイと本市の観光資源をツールに道内外の教育旅行の誘致を図る。 ■ 登別市情報発信拠点施設整備事業 ・ 国内外の観光客が集積するJR登別駅周辺にアイヌ文化の情報発信拠点を整備し、北海道全体のアイヌ文化やその魅力を発信する。同時に象徴空間のみならず道内のアイヌ文化施設への送客拠点機能を担う。
<p>6 事業の成果目標等</p>	
<p>(1) 成果目標の達成に向けた工程</p>	<p>(1) 文化振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アイヌ文様タペストリーの市内公共施設での展示による普及啓発 ・ 市の公式WEBサイトにアイヌ文化等を紹介する特設ページを増設することによる普及啓発 ・ アイヌ文化体験事業（料理等）を通じた普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域におけるアイヌ文化の発信や、地域の人々がアイヌ文化を体験することによって、アイヌの人々が誇りを持って生活することができ、その誇りが尊重される社会の実現を図る事業であり、市の公式WEBサイトの閲覧数が増えるほど効果が高まると考えられる。 ・ (2) 地域・産業振興事業アイヌ文化に関する展示環境の整備による普及啓発 ・ JR登別駅周辺コミュニティバス等運行事業 ・ アイヌ文様ラッピング都市間バス運行事業 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 登別市情報発信拠点施設整備事業外国人観光客が集まるJR登別駅前に情報発信拠点を整備するなど、アイヌ文化を広く発信することで、アイヌの人々が誇りを

	<p>持って生活することができ、その誇りが尊重される社会の実現を図る事業であり、本市を訪れる観光客が増えるほど効果が高まると考えられる。</p>
<p>成果目標、(中間) 目標年度(成果目標に対する現状値、及び(2)文化振興事業果目標の達成見込みについて記載すること)</p>	<p>(1) 文化振興事業 市アイヌ関係WEB閲覧数 (最終目標) 令和5年度 5,000アクセス%/年間</p> <p>(2) 地域・産業振興事業 登別市観光客入込数 (最終年度) 令和5年度 4,100千人/年間 登別市外国人観光客宿泊延数 (最終目標) 令和5年度 600千人/年間</p>
<p>(3) 成果目標の確認方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ KPIである登別市立図書館を利用した市民の割合、登別市観光入込客数、登別市外国人観光客宿泊延べ数について、実績値を公表する。 ・ 市の行政評価システムにより、目標の達成状況等について検証を行い、改善点を踏まえて計画期間内の事業実施等に反映する。
<p>7 地域の概要</p>	
<p>(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題</p>	<p>登別市は北海道の南西部に位置し、年間に延べ400万人を超える観光客が訪れ、宿泊者数は130万人を超える日本有数の観光都市です。同時にアイヌのコタンがあり、自治体名や地域名がアイヌ語に由来するなどアイヌ文化が根底に流れるまちです。</p> <p>特筆すべきは断絶の危機にあったアイヌ語の口承文芸を、後世に伝える決定的な役割を果たした知里幸恵や知里真志保、さらには金成マツなどを輩出したことであり、アイヌ文化が地域全体に深く浸透しています。</p> <p>関連して、アイヌ協会やNPO、市民活動団体が、アイヌ文化を後世に引き継ごうと活動を続けており、アイヌ文化の振興が積極的に展開されています。</p> <p>一方で、アイヌ協会を含む関連団体は高齢化や経済的な理由により、会員の減少、担い手の不足といった課題を抱えており、アイヌ文化の次世代への円滑な継承が喫緊の課題となっています。</p> <p>また、2020年4月に隣接する白老町において民族共生象徴空間が開設されます。札幌市に次いで北海道内第2位の外国人観光客宿泊数を誇る本市が、象徴空間への送客拠点として、ひとりでも多くの人にアイヌ文化に触れてもらえるよう取り組みを行う必要があります。</p> <p>同時に、象徴空間を訪れた観光客が本市にも訪問し、市内のアイヌ文化施設や観光施設に訪問してもらえるよう象徴空間と本市を結ぶ公共交通の充実や施設の整備を図るとともに、多くの外国人観光客が集積するJR登別駅前にインフォメーション機能の充実を図り、北海道全体のアイヌ文化を発信していく必要があります。</p>
<p>(2) 施設等の管理運営体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄南ふれあいセンター(幌別生活館)は登別市が管理している。 ・ 登別市郷土資料館・文化伝承館は、登別市が管理している。 ・ 登別市情報発信拠点施設は登別市が管理する予定。
<p>(3) アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登別アイヌ協会と定期的に意見交換を行っている。

8 収支予算

(1) 収入の部

区分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比較増減	
			増	減
国庫補助金	257,978,800	93,798,680	164,180,120	
市町村負担額	64,494,700	23,449,670	41,045,030	
その他	291,966,000	91,700,386	200,265,614	
総計	614,439,500	208,948,736	405,490,764	0

(2) 支出の部

区分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比較増減	
			増	減
(1) 文化振興事業	540,000	3,217,000	32,000	▲ 2,709,000
旅費	0	0		
需用費	0	927,000		▲ 927,000
委託料	308,000	1,838,000		▲ 1,530,000
備品購入費	0	252,000		▲ 252,000
報償費	100,000	100,000	0	
費用弁償	0	0		
消耗品	132,000	100,000	32,000	
(2) 地域・産業振興事業	613,899,500	205,731,736	408,337,764	▲ 170,000
需用費	0	0		
委託料	37,542,300	3,463,736	34,078,564	
役務費	336,000	506,000		▲ 170,000
報酬費	100,000	0	100,000	
使用料及び賃借料	8,029,000	7,918,000	111,000	
工事請負費	552,726,000	193,844,000	358,882,000	
備品購入費	14,790,200	0	14,790,200	
消耗品費	376,000	0	376,000	
(3) コミュニティ活動支援事業	0	0		
委託料	0	0		
旅費(職員)	0	0		
工事請負費	0	0		
総計	614,439,500	208,948,736	408,369,764	▲ 2,879,000